

会員各位

(一社) 長野県理学療法士会

会 長 佐藤 博之 (公印省略)

生涯学習部長 大橋 淳司 (公印省略)

令和 6 年度長野県理学療法士会主催症例検討会の演題概要のお知らせ

拝啓

先生方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

長野県理学療法士会では自施設に登録理学療法士会がない後期研修対象者を中心として長野県理学療法士会主催症例検討会を WEB 形式で開催しており、下記内容で令和 6 年度長野県理学療法士会主催症例検討会を開催予定です。

今回、令和 6 年度長野県理学療法士会主催症例検討会の演題概要に関して連絡させていただきます。

令和 6 年度長野県理学療法士会主催症例検討会に参加予定の方は演題概要をご確認ください。

【開催内容】

令和 6 年度長野県理学療法士会主催症例検討会

日時：令和 7 年 1 月 25 日 (土) 19 時 00 分～19 時 30 分

発表形式：ZOOM を使用した WEB 形式の症例検討会

パワーポイントを用いた口述発表で 20 分程度の発表、10 分程度の質疑応答

発表者：林 吉尚 (諏訪中央病院)

履修聴講ポイント：後期研修 E 領域別研修 (事例) E-2：運動器障害系理学療法学

発表テーマ：「膝複合靭帯損傷に対する理学療法の工夫」

【演題概要】

本邦において、前十字靭帯損傷後のリハビリテーションプログラムに決まったものはない。術後リハビリテーションでは術後関節固定の有無、荷重開始時期、筋力トレーニングの選択、スポーツ復帰などに各医療機関によって相違を認める。膝複合靭帯損傷の場合、組織の治癒状態に合わせて理学療法を進める必要があるが明確な管理プロトコルはなく、理学所見だけでは組織状態の把握は難しい。また、膝複合靭帯損傷術後の問題点として関節可動域制限や靭帯の力学的特性の低下に伴う関節不安定性の残存、手術侵襲が大きいにも関わらずリハビリの進捗は遅くなることなどがあり単独損傷と比較し成績が不良である。以上のことから組織状態を把握しながら修復時期に応じた理学療法を提供することで、組織修復を阻害することなく積極的な理学療法を実施し、早期に機能的な膝関節の獲得が可能であると考えた。今回超音波画像診断装置を用いて組織の修復状態に着目しながら理学療法を行った。経過を踏まえて報告する。

問い合わせ先

諏訪中央病院 リハビリテーション科 大橋 淳司 TEL：0266-72-1000